

グローバル・カフェ「マレーシア異文化交流会」を開催しました

2026年4月16日（木）、グローバル・カフェでは「マレーシア異文化交流会」を実施しました。本学の学術交流協定校であるプトラ・マレーシア大学（以下、UPM）の学生10名と職員1



名が“Voice of Culture and Beyond: Exploring Japan (VOCAB)”と題したプログラムで2026年4月15日～18日に来日し、プログラムの一環として、本学学生との交流のため4月16日～17日に来学しました。両大学より自国紹介、民族衣装の紹介、対話交流などを通じて交流を深めました。グローバル・カフェでは4月16日の午前に授業を実施し、午後に交流会を開催しました。

授業は大学教育基盤センター准教授のマクラハン先生にご協力いただきました。日本人学生20名、教職員5名が参加しました。授業ではUPMの学生によるマレーシアの国の紹介から始まりました。マレーシアはマレー系、華人系、インド系が存在する多民族国家であり、多様性に富んでいる様子が伺えました。



続いて民族衣装を着たUPMの学生による民族舞踊が優雅に披露されました。



その後、バティック（ろうけつ染め）体験として、本学の学生にバティックのキットが配られ、UPM学生からの説明を受けながら、それぞれが好みの色鮮やかな色合いに仕上げていきました。（次頁に続く）



午後の交流会は"Exchange Programme with the Universiti Putra Malaysia students" と題したプログラムで、日本人学生 23 名、留学生 8 名、教職員 8 名が参加しました。インターナショナルオフィス特命助教のケンパー先生が司会進行を務め、アイスブレイキングから始まりました。続いて両校の紹介がありました。本学の学生 5 名は所属学部の紹介や大学生活、日本の教育制度について、スライドを用いて説明しました。



インターナショナルオフィス特命准教授の植村友香子先生は、日本の伝統的な衣装である着物について紹介しました。植村先生は着物には様々な種類があり、時と場合、年齢によって着用するものが異なること、家ごとに家紋があって格の高い着物には家紋がついていることなど、ご自身の着物を用いたり、写真を交えて説明されました。

最後はグループに分かれて、多文化社会、それぞれの国のインターネット文化、AI について活発に意見交換がされました。マレーシアから持ってきて下さったお菓子をいただきながら、交流を深めました。

